

## ワークショップ

### 精神医学の基礎を問う

オーガナイザー	榎原英輔（東京大学・大学院医学系研究科）
提題予定者	榎原英輔（東京大学・大学院医学系研究科） 石原孝二（東京大学・大学院総合文化研究科） 信原幸弘（東京大学・大学院総合文化研究科）

精神医学についての哲学的考察は、1980年代後半から心の哲学、現象学、科学哲学などの精神医学領域への応用分野として盛んになってきた。また2000年頃より、DSM-III（『精神障害の診断・統計マニュアル』第3版）以降の精神医学・精神医療を批判的に振り返り、精神医学の基本的前提を見直す議論が、精神科医の間からも提起されるようになってきている。本企画では、2013年より東京大学で活動を開始したPPP（Philosophy of Psychiatry and Psychology）研究会のメンバーのうち3名で、活況を呈しつつある精神医学の哲学の現状と展望を紹介するワークショップを行う。オーガナイザーの榎原がまず、精神医学の多元性と、精神医学の哲学に取り組む際に取りうるアプローチの多様性を提示し、精神医学の哲学とおおまかに括られる研究分野の現状と将来性について簡単に紹介する。次に榎原、石原、信原の3名の発表者が、それぞれの研究成果を発表し、最後に全体討議を行う。